

「豊丘村自転車活用推進計画（案）」に対するご意見

番号	ご意見の要旨	豊丘村の考え方
1	SDGs と本計画の目標が分かりにくいのでは。SDGs では、すべての人がとあるが、テーマに係るだけでいいのか？	日常生活において“自転車に乗る”という「行動」が、地域の環境負荷の低減に寄与するとともに、自身の健康増進にもつながるなど、村民一人ひとりが出来る SDGs の取組みとなります。 「誰一人取り残さない」という SDGs の理念を踏まえ、多様な個性を受け入れ活かす社会をつくることを、施策の実施にあたっては配慮していきます。
2	村内の自転車活用を何%から何%にするとか、村民の方にも資料内容を願う。	交通分担率の目標設定については、設定の意義も踏まえ、実施する中で検討してまいります。
3	サイクリング大会等について、子供向けコース（道の駅近くに）の整備が必要。	現在天竜川河川敷に自転車コースの整備を計画中です。計画を実施する上でご意見として参考とさせていただきます。
4	学生、大人の大会企画また、イベント規模として郡の大会、県の大会が開催できるよう、見据えた検討を願う。	自転車活用推進計画に記載した取組を検討・実施していく上でご意見として参考とさせていただきます。
5	通行空間整備について、利用例に農作業やゲートボール愛好者とあるが、いずれも現代社会では高齢者となっており、通行空間整備にはかなり安全性を確保した整備を願う。	同上
6	サイクリングロードの整備について、誘導看板の統一は他町村とも合意が必要。	計画を実施する中で近隣市町村と連携を図っていきます。
7	看板は外国語の併記も検討願う。	自転車活用推進計画に記載した取組を検討・実施していく上でご意見として参考とさせていただきます。
8	サイクリングルート、コース整備に休憩ベンチ、野外トイレ、休憩東屋の検討を願う。	同上
9	「とよおか旅時間」の設備充実を図りとあるが、旅時間の建物について、	「とよおか旅時間」については、どなたでも利用しやすい施設となるよう、例

	本事業が進むにつれて、現建物内の観光バス乗務員休憩室の利用がますます利用しにくくなると考えられ、今のうちに現建物内の東西にある小部屋を入れ替えることを強く願う。	えば、観光バスの乗務員の方についてはスムーズな案内を行うなど、今後の取り組みの中でご意見として参考とさせていただきます。
10	「ボンシャンス」は地域密着型のサイクルスポーツチームとしてとあるが、イベントPRのためにもチーム名に「豊丘〇〇チーム」などネーミングの検討を。	ご意見として参考とさせていただきます。なお、ボンシャンスのチームジャージ（ユニホーム）には「とよおか旅時間」のロゴが大きく入り、だんQくんがデザインされています。今後も地域に愛されるチームとなるよう村としても活動を支援していきます。
11	シクロクロス大会について、毎年規模の拡大を視野に入れたコースの整備や設置の検討を願う。	現在コースの整備を計画中です。取り組みを進める上でご意見として参考とさせていただきます。
12	インバウンド等の海外からの来訪者に向け PR は広域と連携するのは良いが、PR 後の来訪者に対する外国語の統一整備と、各町村内の観光案内看板及びパンフの整備を願う。	パンフレットに関しましては、日本語を含む 10 ヶ国語で豊丘村観光案内をご覧いただける無料アプリを公開中です。看板の整備に関しましても、今後の取り組みの中でご意見として参考とさせていただきます。
13	高齢に伴う免許返納に備え、自転車を利用する社会環境の創出を目指す とあるが、今少しわかりやすく内容を示されたい。 免許返納は特別事情がない限り、80 才以上からの返納の実態が多いと思われ、その歳で自転車に乗り換えることは極めて危険な面もある。それでも自転車利用が可能になるように、若いうちから自転車に対応できる身体づくりが必要と理解するが、そのためになにをするのか、自転車空間の安全整備、道路交通法の指導、健康維持のための計画等、特に現在高齢者に対しどのような計画内容かわからない。目標 3 にもあるように「誰もが無理なく安全に自転車を利用できる環境の創出を図る。」とある事から高齢者への対応は広く、深く検討を願う。	これまで移動手段を自動車に依存してきた地域性、現状のインフラでは、自転車の利用を普及させることは容易ではなく、自転車通行空間の整備とともに、自転車を安全に走行できる正しい知識や技術を身に付け、自転車・歩行者・自動車が互いに尊重し合う、「道路をシェアする」という意識が重要です。そのために、自転車の利用を習慣付け、自動車に過度に依存する社会の中で、自転車がどのように共存していくべきかの教育が必要になります。 豊丘村内の子どもたちには既存の交通安全教室とは異なる、安全に走行する技術の習得と、自転車に乗る楽しみを経験することに重点をおいた自転車教室を計画中です。 高齢者においては、高齢者向け自転車教室等、実際に自転車に乗る技術を学ぶ機会や、道路をシェアするという考え方を学ぶ教室などを検討します。
14	サイクルバスの導入を検討とあるが、JR では一部認められているが、	車輛の外部に積載機能を持たせることを想定していますが、利用状況に応じて、

	これは車輛自体が大きく、専用車両等で可能だが、村内のコミュニティバスは車輛的に小さいため、車輛の外に積載機能をつけるのか、現状で一般利用の乗合の中に持ち込むのかが不明。持ち込みの方向であれば、利用方法について、十分な検討を願う。	内部に持ち込みが可能な車輛の整備も検討します。
15	特にスポーツ用と強調されているが、村民の日常生活の中に自転車を普及させる目的があるため、何もスポーツ用にこだわる必要はなく、基本的に自転車利用は何でも良いことと考える。特に高齢者やご婦人などは利用が難しいので検討を願う。三輪自転車、婦人用自転車などレンタルと村民の脚用とは別の考えが必要では。	自転車競技や、日常生活における自転車利用も含めた生涯スポーツの普及奨励により、心身の健全な発達や、生きがいのある豊かな生活の実現、村民の健康寿命の延伸等を目指します。日常の身体活動量の増加・底上げを図るため、高齢者や女性を含む体力に自信がない方にこそ、走行性能や安全性能が高いスポーツバイクや E-BIKE の利用を推奨します。 しかし、自転車の利用をスポーツに限定するということではなく、各々の考え方に応じて自転車を活用していただき、自転車の利用を普及させていきたいと考えております。
16	住民が参加できるイベントなどで通じて情報を発信し理解を得るよう努めていくとあるが、イベントは理解したうえで参加する方もいるため、示されているように、広報や村のホームページ、また、各区へお願いする中で、住民意識の啓発と事業計画の理解を求めていく計画が必要では。	イベントだけでなく、村広報や関係機関と連携して情報を発信し、すべての住民を対象に、自転車に対しての理解を得るよう努めていきます。
17	住民への啓発は P24 の計画のフォローアップの表には記されていないが、計画推進が始めるまでの 1 年間とするような、期限を定めたほうが良いと考え、検討を願う。	計画の推進の中に「住民への啓発」も含まれており、期限を定めるのではなく、計画を推進する中でも継続的に行っていきます。